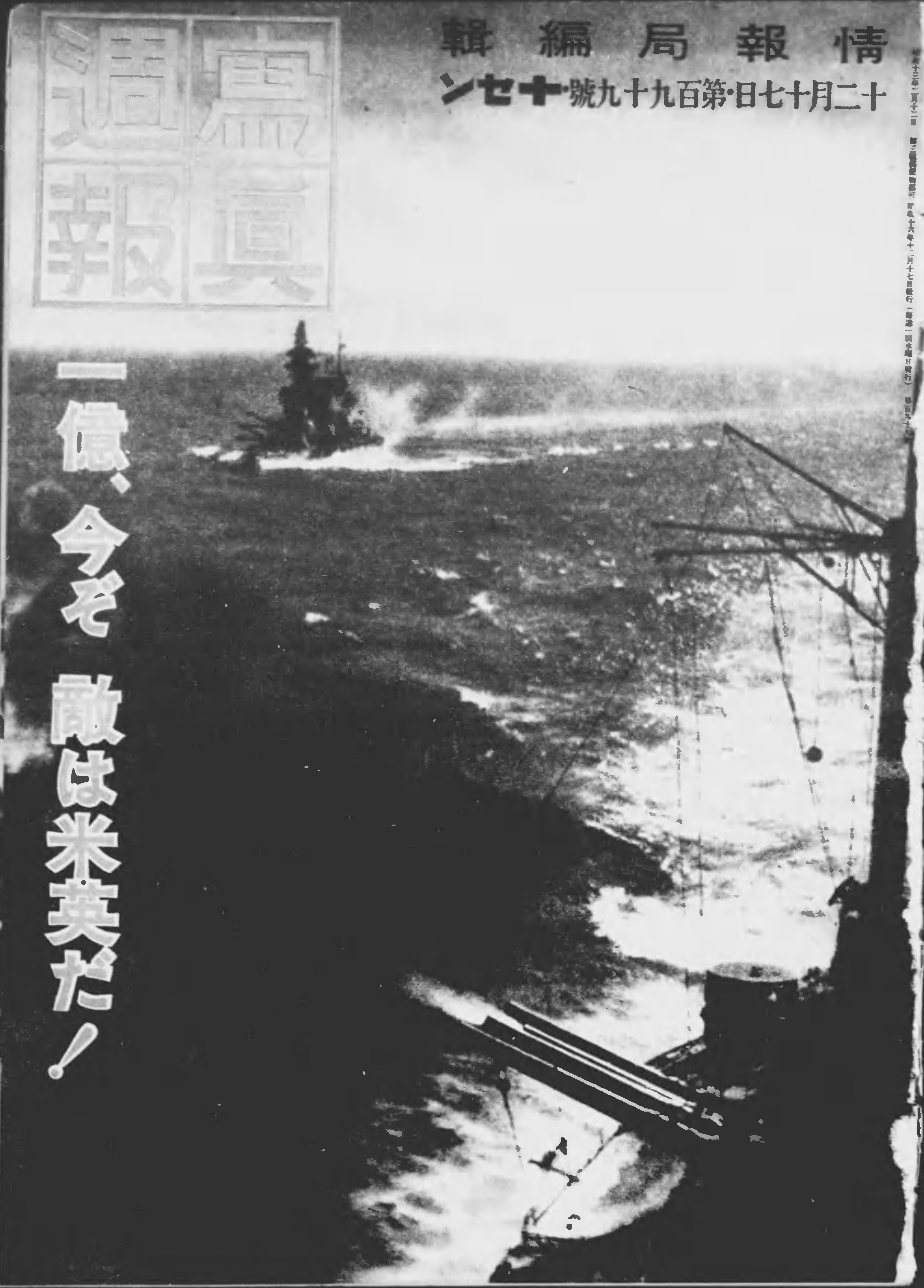
寫眞週報

情報局編輯

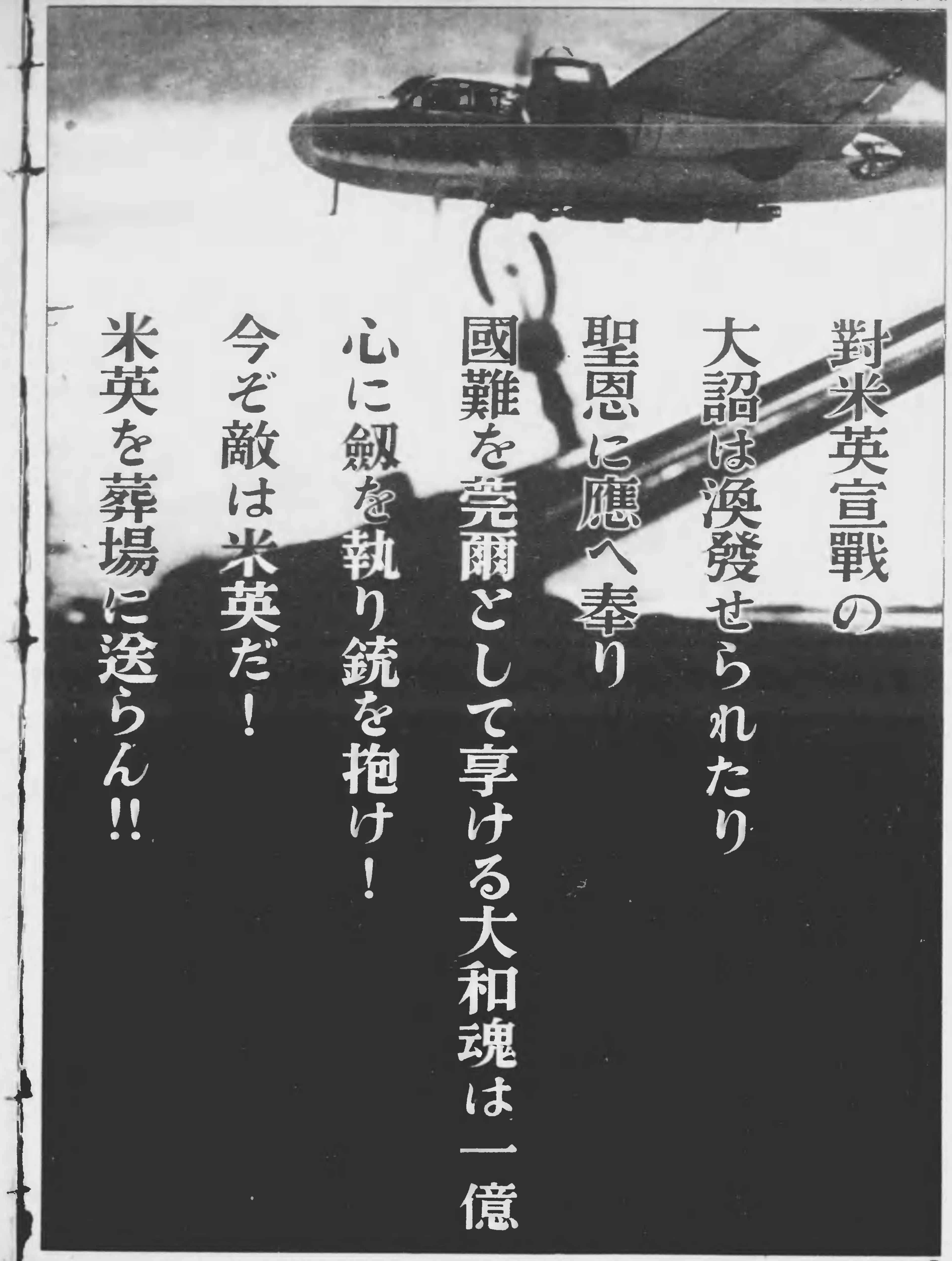
十二月十七日・第百九十九號・十セン



一億、今ぞ 敵は米英だ！

昭和十三年二月十二日 第三種郵便物認可 昭和十六年十二月十七日發行（毎週一回水曜日發行） 第百九十

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



對米英宣戰の
大詔は渙發せられたり
聖恩に應へ奉り
國難を莞爾として享ける大和魂は一億
心に劔を執り銃を抱け！
今ぞ敵は米英だ！
米英を葬場に送らん!!

山本聯合艦隊司令長官艨艟を率ゐて起つ

詔書は渙發せられ、米英に、對する宣戰は布告された。隠忍自重東亞の平和を念願してきたわが正義を暴戻にも踏み破つた米英に斷乎下したわが陸海軍の緊密な電撃的共同作戰は西太平洋の米領諸島及南太平洋英領シンガポール、佛印泰國境、香港等廣大な範圍に亘つて行はれ、わが忠勇なる決死の陸海軍部隊によつて戰果は着々と擧げられてゐる

すなはち昭和十六年十二月八日午前六時『帝國陸海軍は本八日未明西太平洋において米英軍と戰闘狀態に入れり』の大本營陸海軍部發表に次いで『マレー半島の奇襲敵前上陸作戰の敢行』及び『ハワイ方面の米艦隊並に航空兵力に對する大奇襲作戰の成功』『上海における英砲艦ペテレル號撃沈、米砲艦ウェーク號の捕獲』『シンガポール、ダヴァオ、ウェーク、グアム、ミッドウェイなどの敵軍事施設の爆撃』等々正に閃電の進撃は陸に海に續けられ、將兵の意氣はすこぶるさかんである

すでに太平洋を斷じて護る決死のわが海の艨艟は萬里の波濤を蹴たて、帝國の自存自衛のため蹶然起つて一切の障礙を破碎しつゝあり

撮影　海軍省

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

火砲は西太平洋上に開かれたり

⇨ 空に火を吐く二聯装の艦上高角砲

撮影　海軍省

⇨ 太平洋上何處へ？わが潜水戰隊「必勝」の進撃振り

⇦ 戰艦の巨砲火を吐く日は遂に來た。戰鬪艦の主砲射撃は休みなく續く……

⇨ 敢然！水雷戰隊の猛攻である。煙幕に身を包み、挺身の一瞬

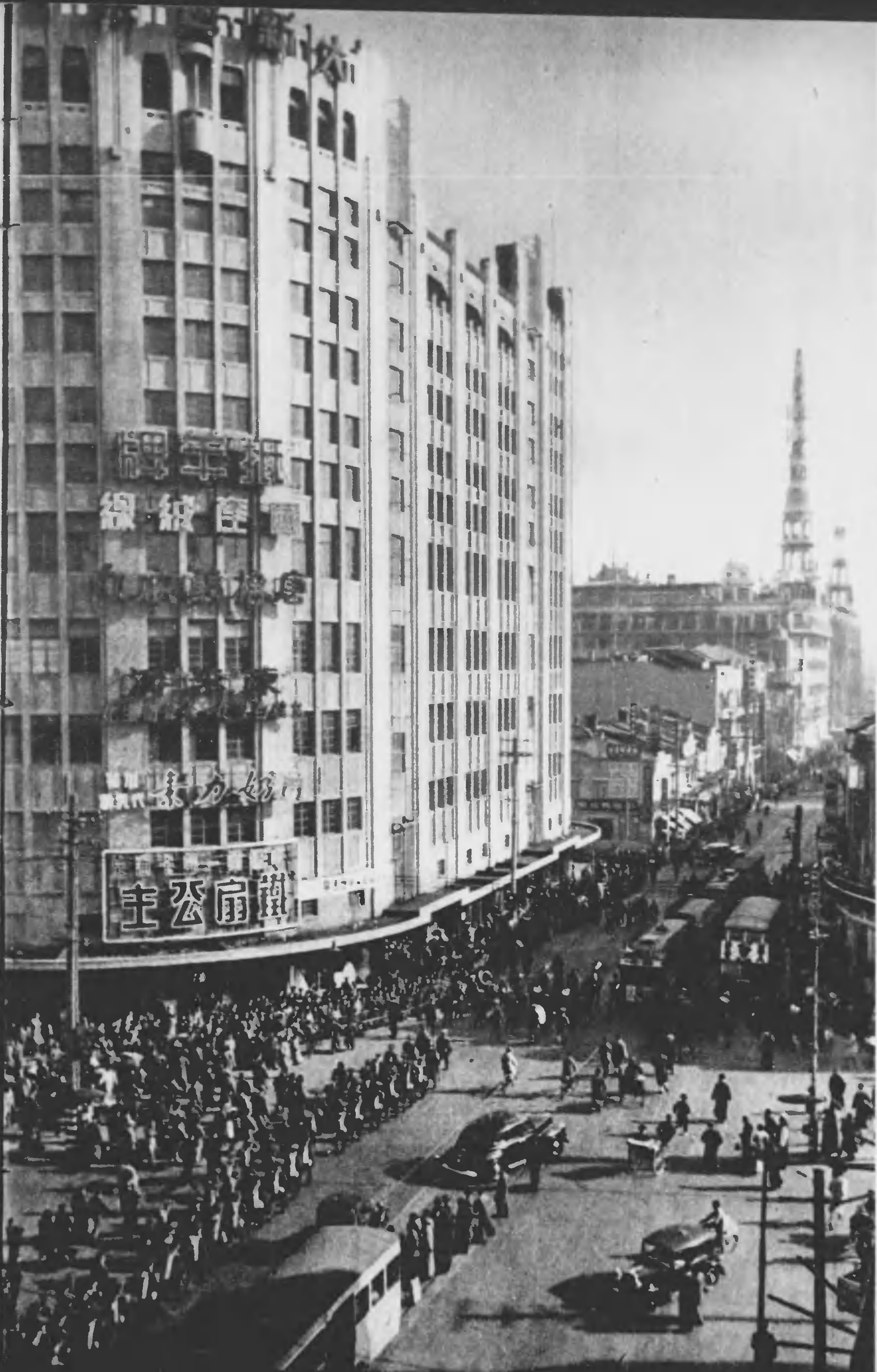
⇦ ハワイ、ミッドウェイさては米本土の空襲は必然的である。「移動する飛行場」わが航空母艦の威容、いまぞ爆撃に飛びたつわが海鷲

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

米勢力は上海から驅逐せられたり

上海よさやうなら……マリンの退却によつて國際都市上海が生れ更るのだ……

撮影　支那派遣軍報道部



日米會談の行惱みと共に、切迫した東亞の危急が色濃く傳へられ始めた十一月下旬、アメリカ第四マリンは今日の事態を豫知せるかのやうに國際都市上海から退却して行つた

蔣介石の第一次北伐の際締結された共同租界防備協定に基いて、アメリカ・マリンが上海に駐屯するやうになつてから既に十四年、その間アメリカ・マリンは米英權益の番犬として東亞の屈辱を表象して來た。そしてその屈辱が正に拂拭されやうとする數日前彼らはそぼふる雨に星條旗を濡しつゝ、東亞の天地から姿を消して行つたのだ

しつぽを卷いて上海港から脱れ去つたアメリカ・マリンの姿は、歴史的な壯擧對米英宣戰の序曲を飾るものとしては餘りにも佗しかつた

⇧マリン引揚げ決定と同時に一日二十一組も集團結婚式をあげたヤンキー娘や上海娘があつたといふが……

⇦オーイ！ そこに忘れたおれの銃をとつてくれ！ 戰ひを忘れたやうなアメリカ水兵

第四マリンの引揚船プレジデント・マヂソン號

引揚げに當つて悲壯な訓辭を述べるハワード第四マリン隊長

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

遂に至る米英撃滅の秋

征け 驕らず 臆せず 沈着に

『大詔を拜し奉りて』と題し、首相官邸から烈々の言をもつて國民に決意を促す東條首相

畏し宣戰の御詔勅下る 赤子こぞつて奮ひ起つ

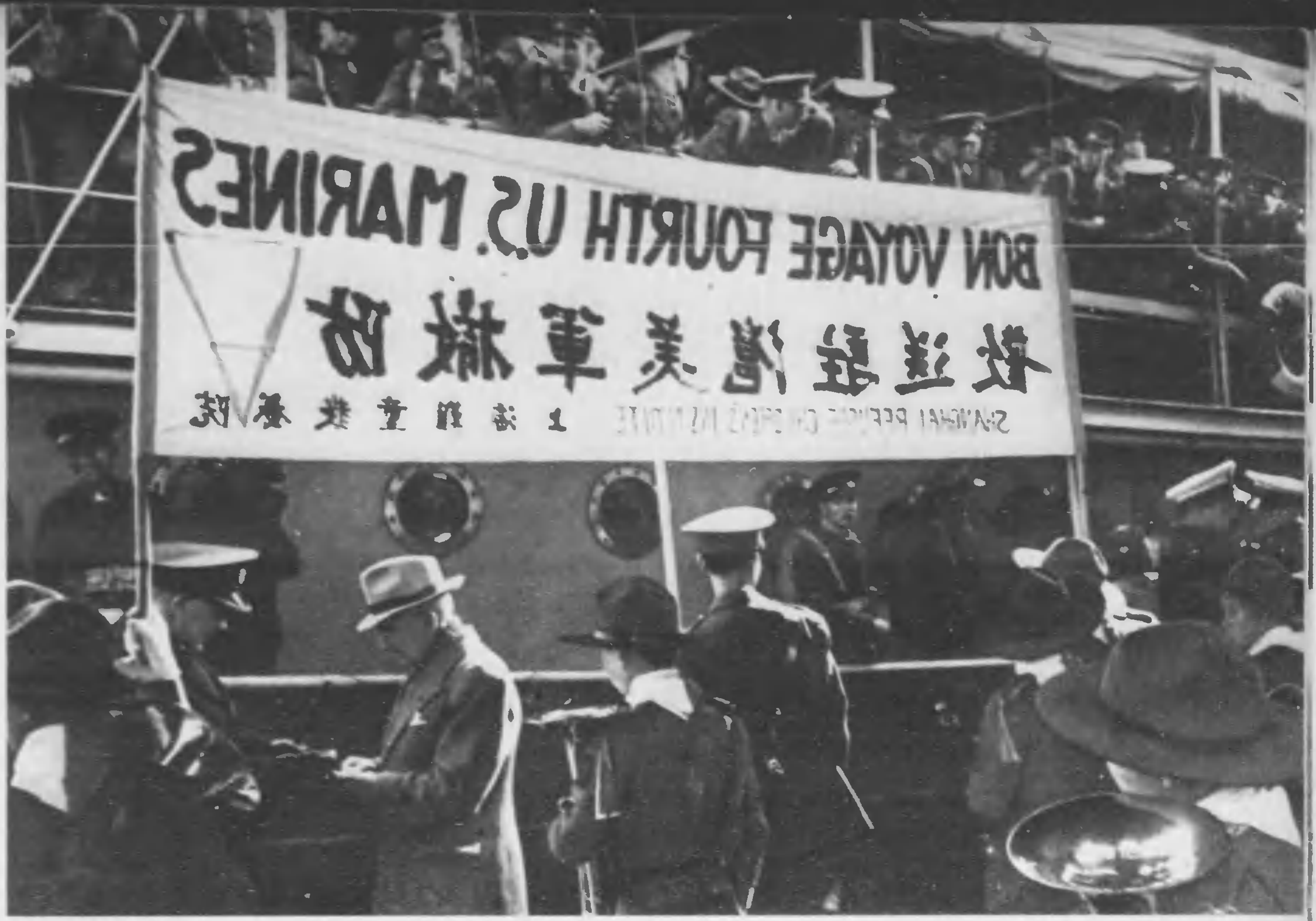
遂に仇敵米英を打倒すべき秋は來た。昭和十六年十二月八日、この日こそ、日本國民の永久に忘れ得ない日となつた。アジア十億の民がアジアの運命決定の日として、否アジアはかりでなく、世界の全人類が新らしい歷史創生の日として、永遠に記憶する日となつた

見よ、暴慢者も反省の色なき米英に、蹶然起つて戰を宣する、陸海空のわが精鋭は息もつかせず、南北果てしなき太平洋の萬波を蹴つて敵軍事基地を雷動の如く襲ひ、僅か旬日を出ないで、既に敵を呑むの慨があるではないか。その壯絕、その男らしさ、銃後にある一億國民誰一人として奮ひ起たないものはないのだ

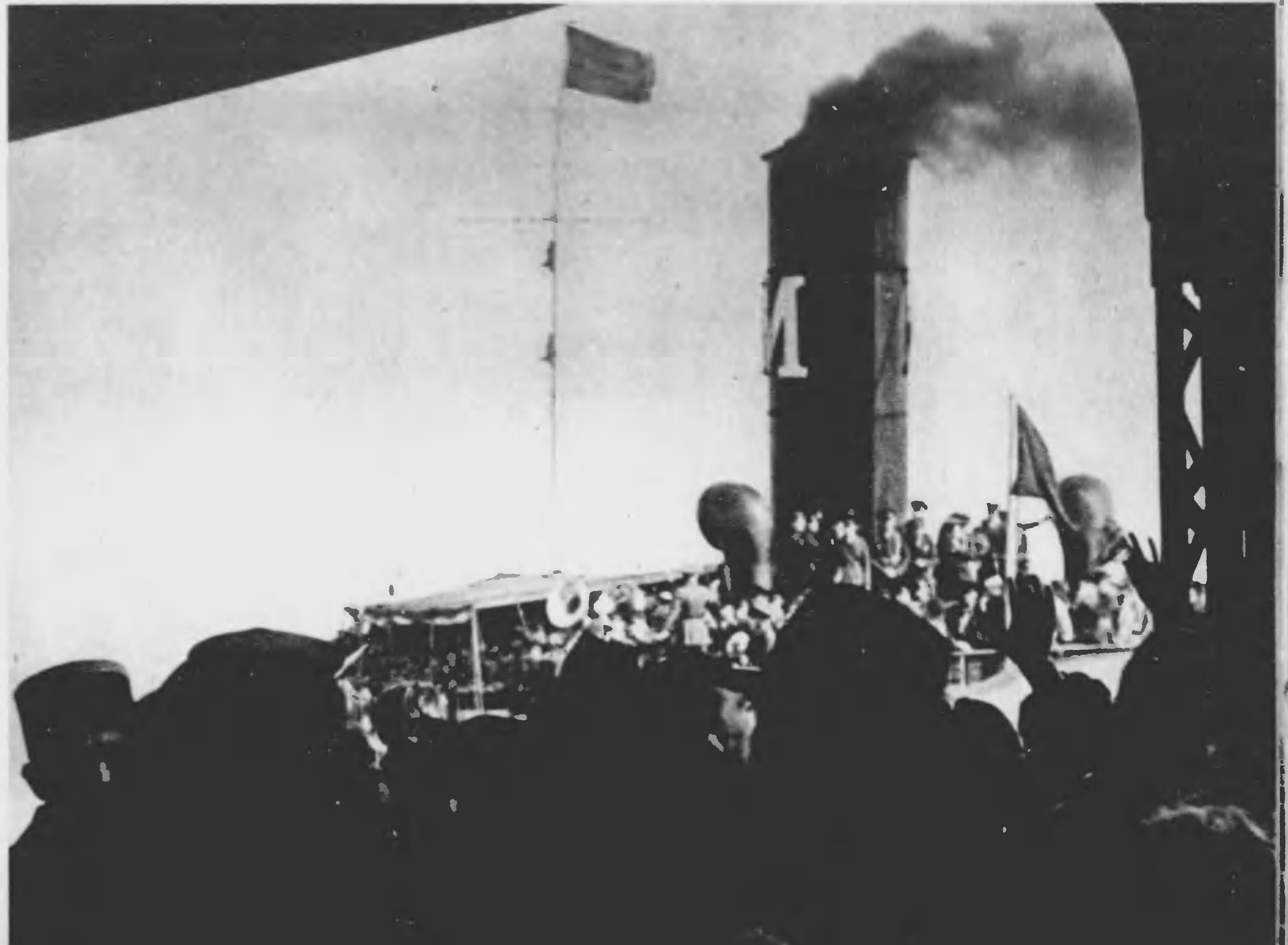
畏くも宣戰の御詔勅を渙發あらせられ「朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ囘復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益〻經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衞ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ」とのたまはせられた。この大詔を下し給へる　上御一人の大御心のほど、拜察し奉るだにわれらは深心の勇をふるつて聖慮に應へ奉るの念を禁じ得ないのである

東條首相は宣戰の御詔勅を拜して「今宣戰の大詔を拜しまして恐懼感激に堪へず、私不肖なりといへども一身を捧げて決死報國唯々宸襟を安んじ奉らんとの念願のみであります。國民諸君もが己が身を顧みず、醜の御楯たるの光榮を同じくせらるるものと信ずるものであります」と全國民に向つて切々と訴へた。この要請に對して、もとよりわれらはどんな僻陬の地にあつても、既に心はその傘下に、翕然として馳せ參じてゐる。熾んなるかな、一大決戰の秋、われらの烈々の氣魄は、今、天地をどよもして、打倒敵性諸國の多難なる道を決然驀進し始めた

米勢力は上海から驅逐せられたり


BON VOYAGE FOURTH U.S. MARINES

⇨埠頭では難民兒童で編成されたブラス・バンドが葬送曲になるとも知らず螢の光を奏でてマリンの引揚げを送つた



⇨マリンの歷史的引揚げはマヂソン號で行はれた

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

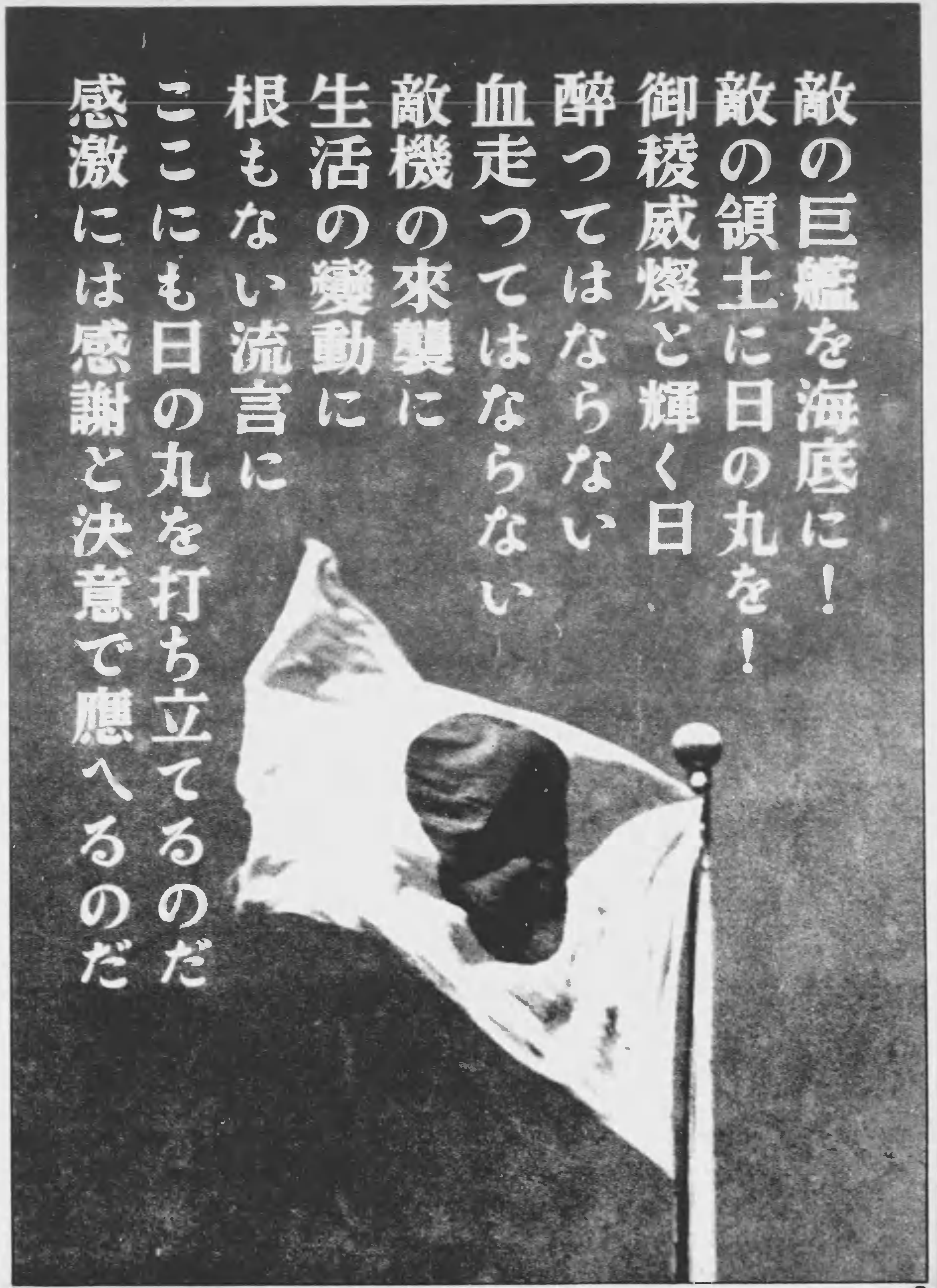
寫眞週報

情報局編輯

十二月廿四日・第二百號・十セン

昭和十三年二月十二日 第三種郵便物認可 昭和十六年十二月廿四日發行（毎週一回水曜日發行） 第二百號

時の立札



敵の巨艦を海底に！

敵の領土に日の丸を！

御稜威燦と輝く日

醉つてはならない

血走つてはならない

敵機の來襲に

生活の變動に

根もない流言に

ここにも日の丸を打ち立てるのだ

感激には感謝と決意で應へるのだ

日獨伊三國更に協定强化

情報局發表【十二月十一日午後十一時】

獨伊兩國は今般對米參戰に決し本十一日ベルリンにおいて帝國全權大島大使、ドイツ國全權リッベントロップ外相並に伊國全權アルフィエリ大使の間に對米英戰の共同遂行、單獨不講和及び新秩序建設協力を內容とする左の如き日獨伊間協定調印せられたり。アメリカ合衆國及び英國に對する共同の戰爭が完遂せらるゝまでは干戈を收めざるの確乎不動の決意を以て大日本帝國政府、ドイツ國政府及びイタリア國政府は左の諸規定を協定せり

谷情報局總裁の協定發表

協定全文

第一條　日本國、ドイツ國及イタリア國はアメリカ合衆國及英國に依り强制せられたる戰爭を其の執り得る一切の强力手段を以て勝利に終る迄遂行すべし

第二條　日本國、ドイツ國及イタリア國は相互の完全なる了解に依るに非ざればアメリカ合衆國及英國の何れとも休戰又は講和を爲さざるべきことを約す

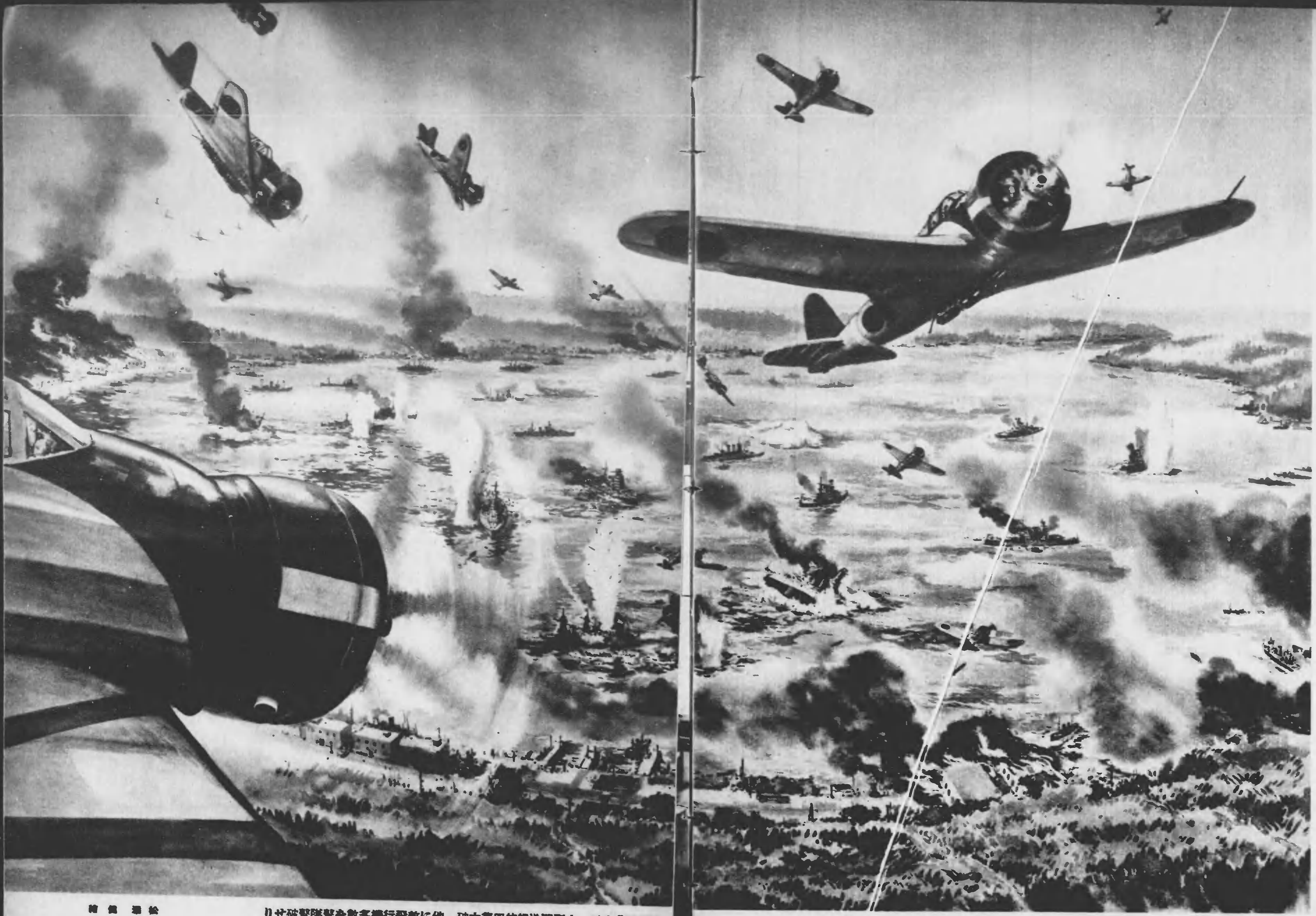
第三條　日本國、ドイツ國及イタリア國は戰爭を勝利を以て終結したる後に於ても亦千九百四十年九月二十七日其の締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序招來の爲最も密接に協力すべし

第四條　本協定は署名と同時に實施せらるべく且千九百四十年九月二十七日の三國條約と同一期間有效たるべし締約國は右有效期間の滿了前適當なる時期に於て爾後に於ける本協定第三條に規定せられたる協力の態樣に付了解を遂ぐべし

曉天を引裂くハワイ眞珠灣攻撃

十二月八日

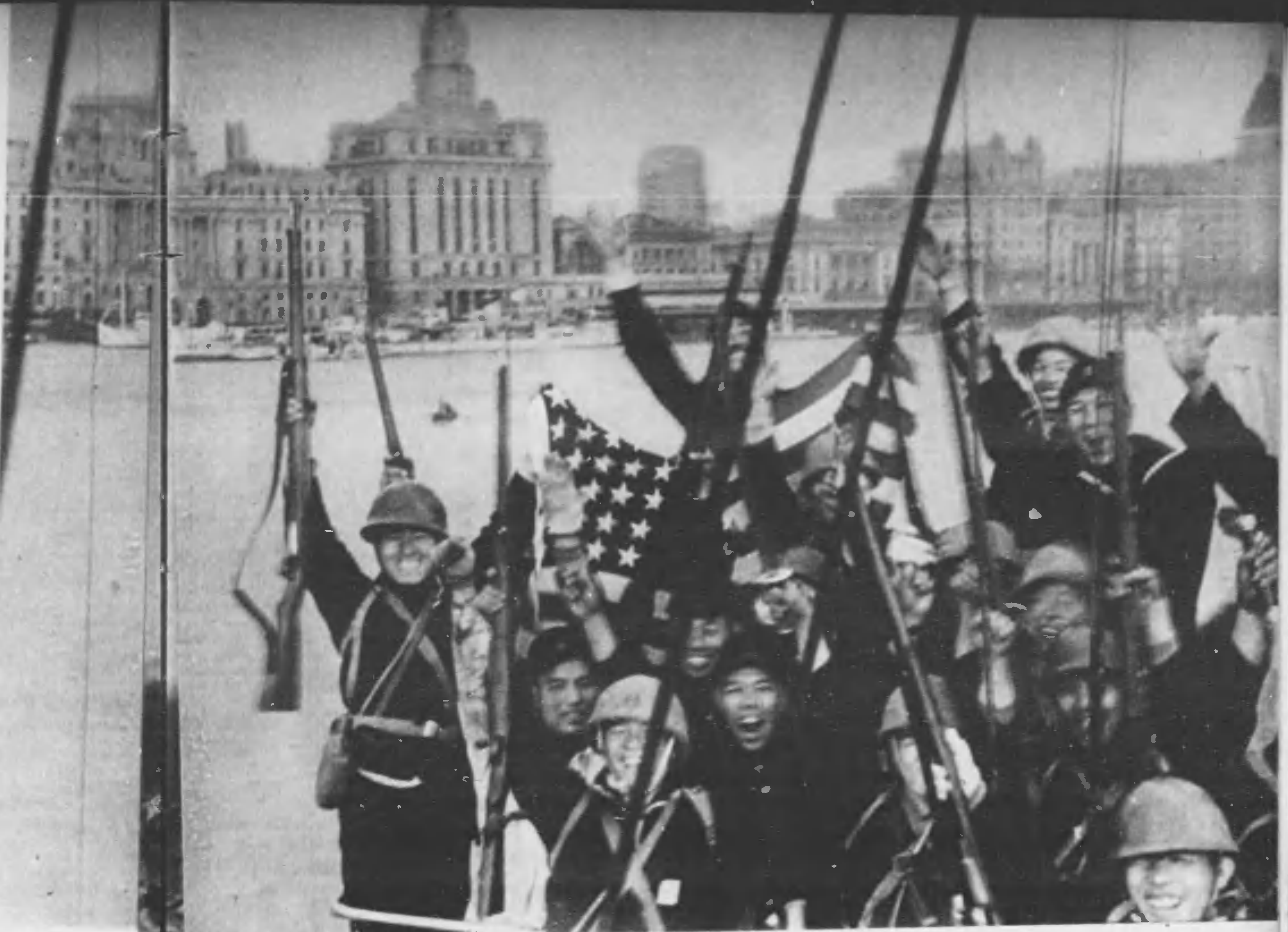
十二月八日未明帝國海軍はハワイ眞珠灣の米國艦隊並に航空兵力に對して決死的大空襲を決行し、大なる戰果を收めたり



戰果 ── 米戰艦オクラホマ ウエストヴアジニア アリゾナの三隻轟沈 戰艦四隻大破 大型巡洋艦約四隻大破 他に敵飛行機多數を撃墜破せり

松添健繪

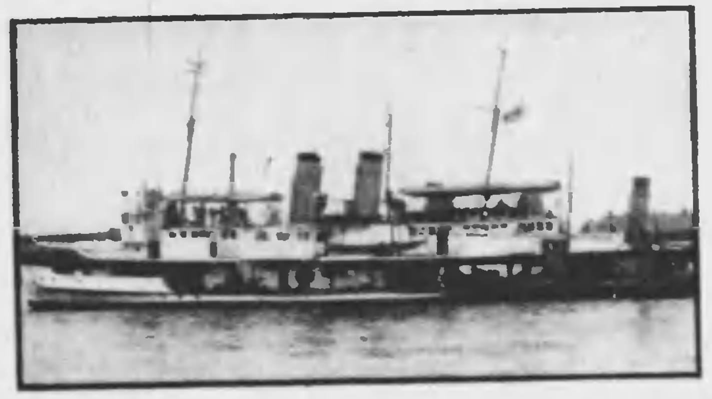
アジア歴史資
Japan Center for Asian



⇧ 敵國旗星條旗は今ぞわが手に……バンドに立ち並ぶ豪壯な敵國權益も今ぞ壞滅の日がきたのだ

まづ上海を血祭に

⇨ 星條旗が下ろされて軍艦旗がするするあがる。あつけなく降伏したアメリカ海軍のだらしなさ



拿捕した米砲艦ウェーク號、今は多多良と命名され帝國海軍に編入された

十二月八日未明突如地軸を搖がす巨砲の轟きが上海五百萬市民の夢を破つた。わが國が米英と戰爭狀態に入るや古賀支那方面艦隊司令長官は上海在港の英ペトレル、米ウェーク兩砲艦に對して、軍使を派遣、降伏を勸告したが英艦はこれを拒絕したので直ちにこれを擊沈、米艦はあへなく降伏した

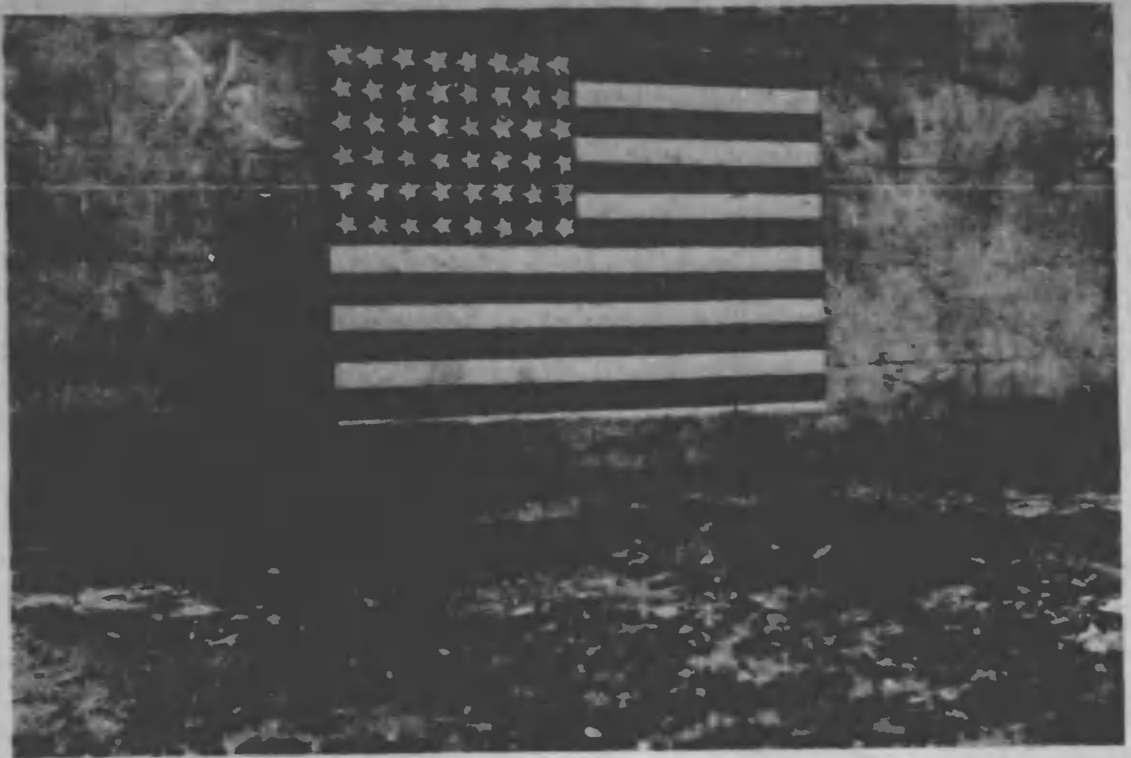
かくて上海に殘存して支那事變完遂の癌となつてゐた米英敵性のシンボルをまづ最初の血祭りにあげたわが海軍は更にこの日の午前陸戰隊を以つて早くもバンド、南京路を中心とする元英國警備區域B區を、陸軍部隊は他の租界の重要地點を夫々占據、こゝに約百年の間米英の東亞侵略の根據地として、或ひは重慶側の抗日前衛據點として根強く敵性を發揮した上海共同租界も一擧にしてわが鐵槌をうけ米英及び重慶側の敵性は完全に壞滅してしまつた

撮影　支那方面艦隊報道部

⇦ 曉闇をつんざく轟音一發、わが降伏勸告を拒絕した英艦ペトレル號はわが砲擊によつて忽ち擊沈された

⇦ 支那を搾取して米英のドル箱となり、重慶側の輸血機關となつてゐた香港上海銀行も遂にわが海軍陸戰隊に占領された

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

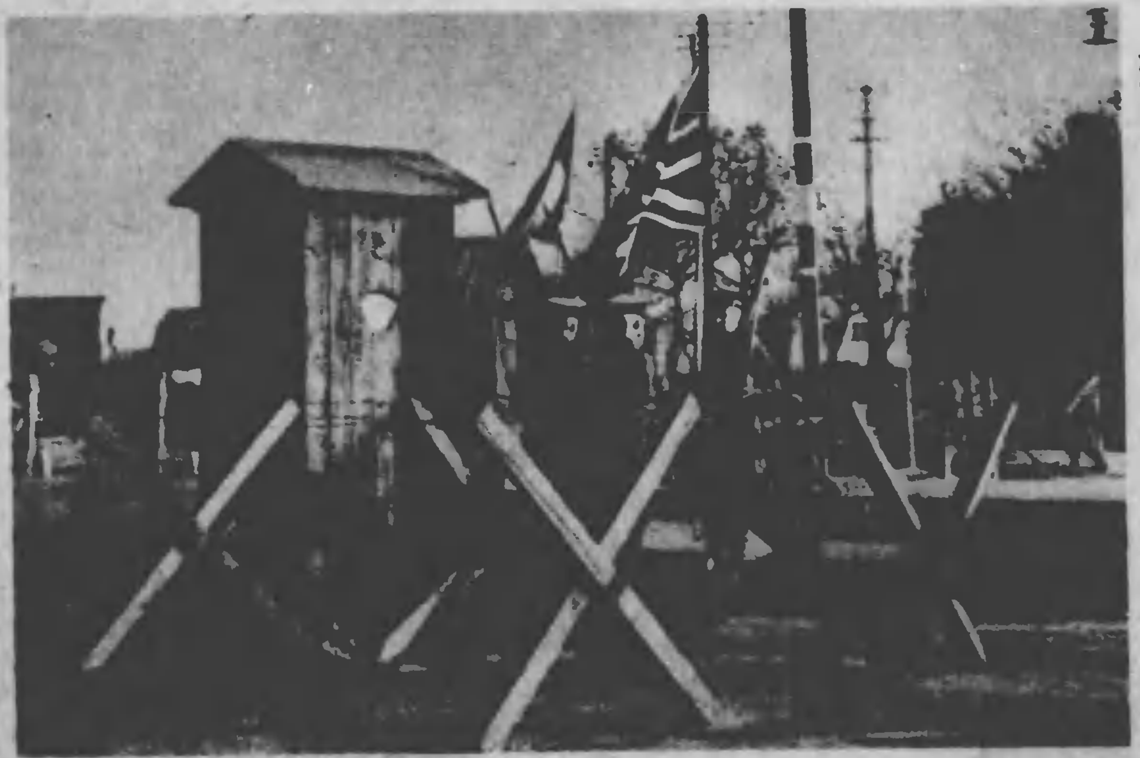


九江に立ち並ぶアメリカ資本の倉庫には星條旗がでか〱と畫かれてゐた。わが軍は第三國の權益に損害を與へぬやうに努力したのにアメリカ側は卑怯にもその米國旗を畫いた壁の銃眼から盛んに支那軍に機銃を撃たせたのだ

九江の米國石油會社、その壁には米國旗が貼附され、現地憲兵隊は「憲兵隊ノ許可ナク搬出及出入スルモノハ軍律ニ依リ罰ニ處ス」旨を明記してみす〱敵性國の權益と知りながらもかくまで保護にあたつてゐた

潰え去った在支敵性

米英の東亜侵略を象徴する米英守備兵の[illegible]デモ行進は上[illegible]名物の一つで、上海の敵性市民はしかもこれを[illegible]して[illegible]へたりなつた上、カーテンフリッツを[illegible]る[illegible]下京語を[illegible]する[illegible]傭兵



上海事變當時、四行倉庫に[illegible]那軍に對し、英陸戰隊は舊英租界の入口にバリケードを築いて日本軍の進撃を阻止してその敵性を遺憾なく發揮したものだつた

支那事變が上海に飛火した當時、皇軍がその攻撃に最も心を碎いたのは、英米の在長江沿岸權益に無益な損傷を與へないといふことだつた

上海へ行つたことのある人は誰しも、船が黄浦江へ入つてゆくと先づ驚くのは、目の前にひらけゆく大都會が、英米の何處かの港ではないかと思はれる程、支那臭がどこにもないことである。黄浦江兩岸の大きな建物、めぼしい工場、煙突等はすべて横文字が書かれユニオン・ジャック旗や星條旗がこゝかしこわが物顔に飜へつてゐる。敢へて支那らしさを求めるならば、黄浦江の水が黄濁してゐることと、その上をあめんぼうのやうに漕ぎ歩くサンパン（支那獨特の小舟）ぐらゐのものである

上陸するとなほ更、ます〱以つて上海は支那ではない。支那人の密集地區は街はづれの片隅に追はれて、目抜きの通りは正に英米でありフランスである。このやうな都市をわが陸軍は包圍し、わが海軍陸戰隊は市街戰を敢行したのである

英米は今日あるを知らず、皇軍が出來るだけ戰禍を小範圍に止め、太平洋を平和のうちに漕がうと、わが軍が不利な立場に立ち、損害をかうむつて迄も彼等の權益を避け、泣いて地團駄を踏んだことは枚擧に追がない。こんな話がある――

その一つ、虹口日本人密集地帶は、開戰當初、毎夜支那軍が空襲してきた。日暮れになると嚴重な燈火管制だ。虹口は眞の闇だつた。ところが蘇州河一つ距てた舊英租界はネオンも毒々しく燦々と灯がついてゐる。更けてくると無氣味な爆音、米國製の爆撃機に打ちまたがつた支那空軍が來襲してくる。すると突然、海軍下士官集合所の傍にある英國水道會社の事務所が煌々と電燈をつけ始めた。何をするのだ。何たることだ。警備兵は驚愕してその門前に飛んでいつた。『消せ！早く！早く消せ！』と叫べど應答なく、人の氣配もない。誰かつけた奴がゐる筈だと門をたゝくが、何の物音もない。空襲管制中たゞ一軒煌々とあかりのついた空家は、その反對の場合にはみられない異常な戰慄である。早くも敵機は頭上に來てゐる。一刻の餘裕もない。一秒も捨て置けない。遂に警備兵は銃のねらひを定めて路上から窓越しに電燈を次々に射撃していつた。漸く全部の電燈を撃ち消し得た時、何處かへ多數の爆彈が落ちて炸裂した

上海は俺たちの植民地だぐらゐに思つてゐたアメリカ。ステッキ代用に鐵砲をふり廻すメリケン水兵に驅使されて無智な支那人苦力は敵性軍需品を續々陸揚げしてゐた

その二つ、昭和十二年十月二十九日閘北ポケット地帶に敵を追ひ込んだ。殲滅だ！と勇み立つたわが士師部隊の勇士は、敵がたてこもつた四行倉庫を三方から包圍した。長方形のこの倉庫は蘇州河畔に建てられ、他の一面が舊英租界に面し、そこには英國々旗を二つこれ見よがしに押し立てた英陸戰隊がトーチカの銃眼からこちらを睨んでゐる。倉庫からは南京豆、砂糖、小麥などの袋をバリケードとして頑強に抵抗してくる。どうしても包圍陣形を布きたい、それには蘇州河から攻撃しなければならない。そこで直ちに内火艇や砲艇に陸戰隊を滿載してガーデン・ブリッヂの下から溯江していつた。四川路橋をくゞつて間もなくゆくと、これはどうしたことか、廣くないこの川幅一面にジャンク（支那の荷舟）やサンパンが所狹しと犇き合つてゐて、どうにも進めなくなつてしまつた。『どけ！』と呼べど『撃つぞ』と怒鳴れど一面に立ちふさがつて、めだかの泳ぐ水路もない。ジャンクやサンパンのきたない支那人、おかみさん、子供がたゞわけもわからぬわめき聲を擧げてゐるのみ。すると先頭の艇に機銃を据ゑて頑張つてゐた兵曹が突然ふり向きざまに必死の聲を擧げてきた。『分隊長殿、分隊長殿、イギリスの野郎だ、こんなことをしやがつたのは、イギリスの野郎であります。奴等がそれ！あそこにも！』見るとジャンクのこゝかしこに英陸戰隊が猿のやうに飛び交ひ、機關銃をこちらに向け、銃劍を擬し、しかも兵曹の目の前には六尺にも餘らうと思はれる英兵が二人大手をあげて立ちふさがつてゐる。『分隊長殿！撃たして下さい。撃たして下さい』もう兵曹は引金に指をかけて、こちらを向いて泣いてゐる。蒼白な双頰を熱涙がハラ〱と落ちてゐる。分隊長は鉛を呑む思ひ。撃つことはたやすい。併し、こゝで英兵を血祭に上げては、とはやる心を双眼鏡に握り据ゑ、總員引き返せと命が下つた。兵曹の涙は機銃に刻印された菊花の御紋章にハラ〱と散つてゐた。この無念の涙こそ今職爭前夜までの全日本人の涙であつたのだ

新戰場辭典

ハワイ

開戰劈頭、長驅ハワイ眞珠灣軍港を奇襲してアメリカ太平洋艦隊の主力並びに航空兵力の大部分を擊滅したわが海軍航空隊の偉功は、一瞬にして全世界を驚愕のどん底に叩き込み、讃嘆の聲をあげしめたのであつた。ハワイ諸島は、對アジアの第一線基地としてアメリカが、多くの年數と尨大な軍事費を投じてその要塞化をはかつてきただけに、アメリカ朝野の受けた打擊は察するに餘りある。次ぎに、わが海軍航空部隊が大東亞戰爭史に輝く第一頁を記錄したハワイ諸島について簡單に述べてみよう

ハワイ諸島はわが東京から東南東約六千キロ、アメリカ太平洋岸サンフランシスコから約三千三百キロの太平洋上に散在する大小二十の島々からなつてゐる。その主なるものはハワイ、マウイ、オアフ、カウアイ、モロカイ島などの所謂ハワイ八島で、その他は無人の小島である。中心をなすものがオアフ島で、首都ホノルル、更に問題の眞珠灣軍港はこの島の西岸に位置してゐる。四季を通じて貿易風が全島を吹き、氣候の溫暖なことは世界でも有名であり、しかも颱風に襲はれるやうなことはきはめて少い

米國海軍の對アジア基地としてのハワイ諸島の重要性は、今更多言を要しない。北はアリューシャン群島の突端から東南に下つてアラスカ及びアメリカ本土の太平洋岸に出で、サンディゴからハワイの線に折れてミッドウェーを經て遠くグアム島に至る馬蹄型對日包圍線の樞軸、即ち扇の要の役目を果してゐたのが、ハワイ諸島である

オアフ島のスコーフィールド飛行場〝流石ドルの國だけに朝夕兵營への行き歸りにも下士兵卒まで自動車でといふ豪勢さ

アメリカはその重要性に鑑み、既に一九〇五年から、このギターとフラ踊りで知られた夢の島ハワイを、鐵と油で要塞化してきた。アメリカが眞珠灣軍港に投じた軍事施設費は今日までで約一千億ドルに上るといはれてゐる。この主なる施設を述べると、戰艦用乾ドック二、同浮ドック一、驅逐艦、潛水艦用乾ドック一、同引揚船用一、同浮ドック一、その他大火藥庫、航空大工廠、大貯油施設等々で、三百五十隻の艦艇を收容しようといふ根據地計畫の雄大さには驚嘆のほかはない。この外最近では眞珠灣周邊の陸軍施設、例へばヒッカム飛行場及びスコーフィールド飛行場なども、飛行場の擴張、兵營の增築などに晝夜兼行の猛作業を續けてきた

かゝる尨大な海軍重要根據地が、一瞬にして大損害を蒙つたのである。今後懸命な再建並びに太平洋艦隊の增强などによつて、ハワイ諸島の軍事能力が復活されるやうなことがあつても、皇軍のグアム島占據、ウェーク島、ミッドウェー島の砲爆擊によつて、ハワイと極東を結ぶ線が壞滅してゐるので、ハワイのアジアに對する威力は半減したとみてよい

第二の眞珠灣といはれてゐるマウイ島西岸のラハイナ水道に遊弋するアメリカ太平洋艦隊〝この大部分が既にわが荒鷲の餌食になつてゐる

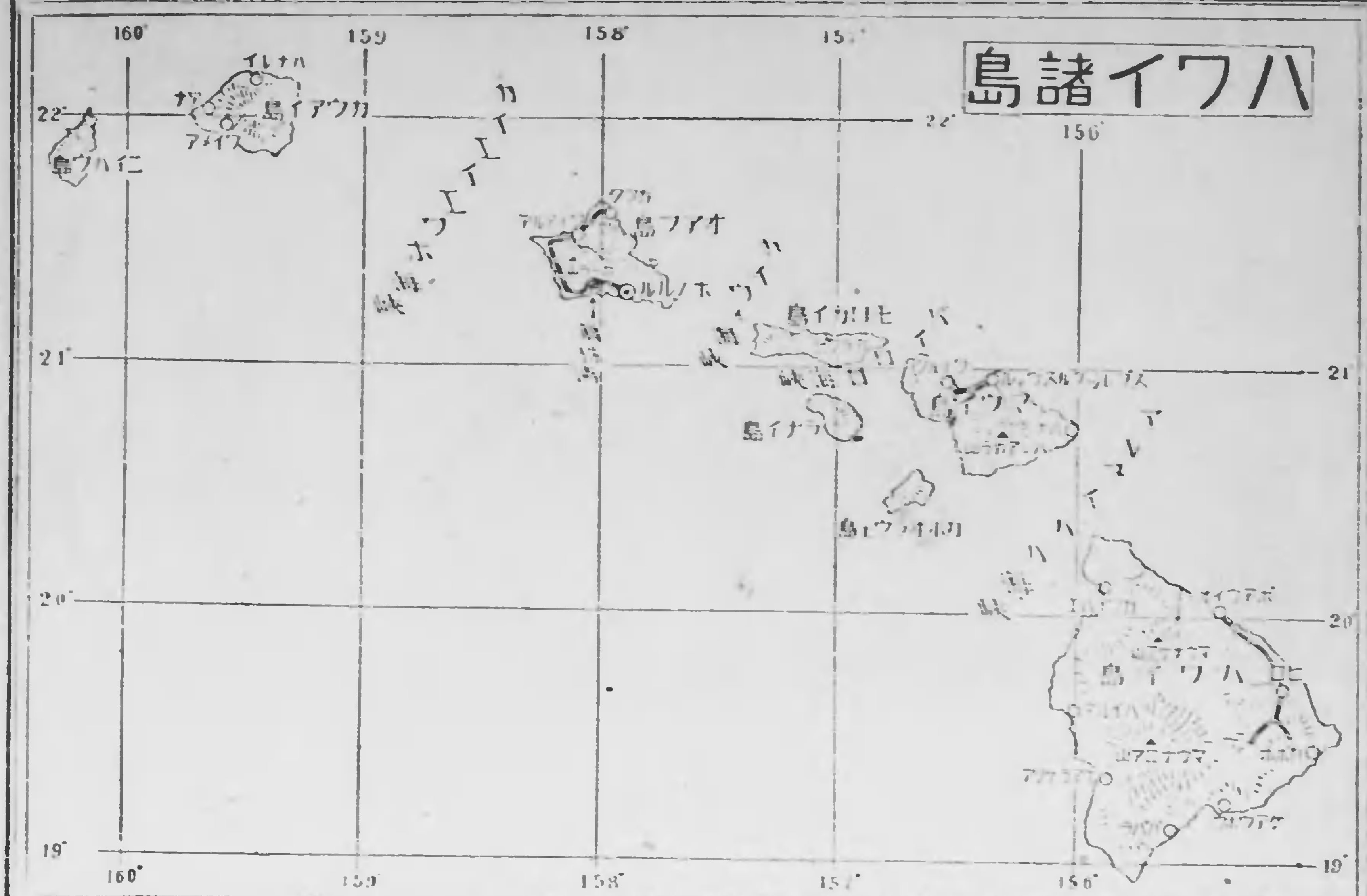
次ぎにハワイに在る同胞について一言すれば、現在ハワイ人口約四十二万三千のうち、その三分の一約十五万はわが同胞で擁ふてゐる。わが國のハワイ移民はわが移民史上でも最も古いもので、既に明治元年にハワイ島の甘蔗園勞働者として雇はれて彼の地に渡航してゐる。その後集團移民は一時中絕したが、明治十八年以後再びいはゆる官約移民として續々渡航するものが多く、明治三十一年即ち一八九八年ハワイがアメリカに合倂されるまで續いた。明治四十一年日米間に紳士條約が結ばれ、日本移民のハワイ渡航は阻止されてしまつたが、これは日本移民の經濟的社會的地位向上を未然に抑へようとしたものといはれてゐる

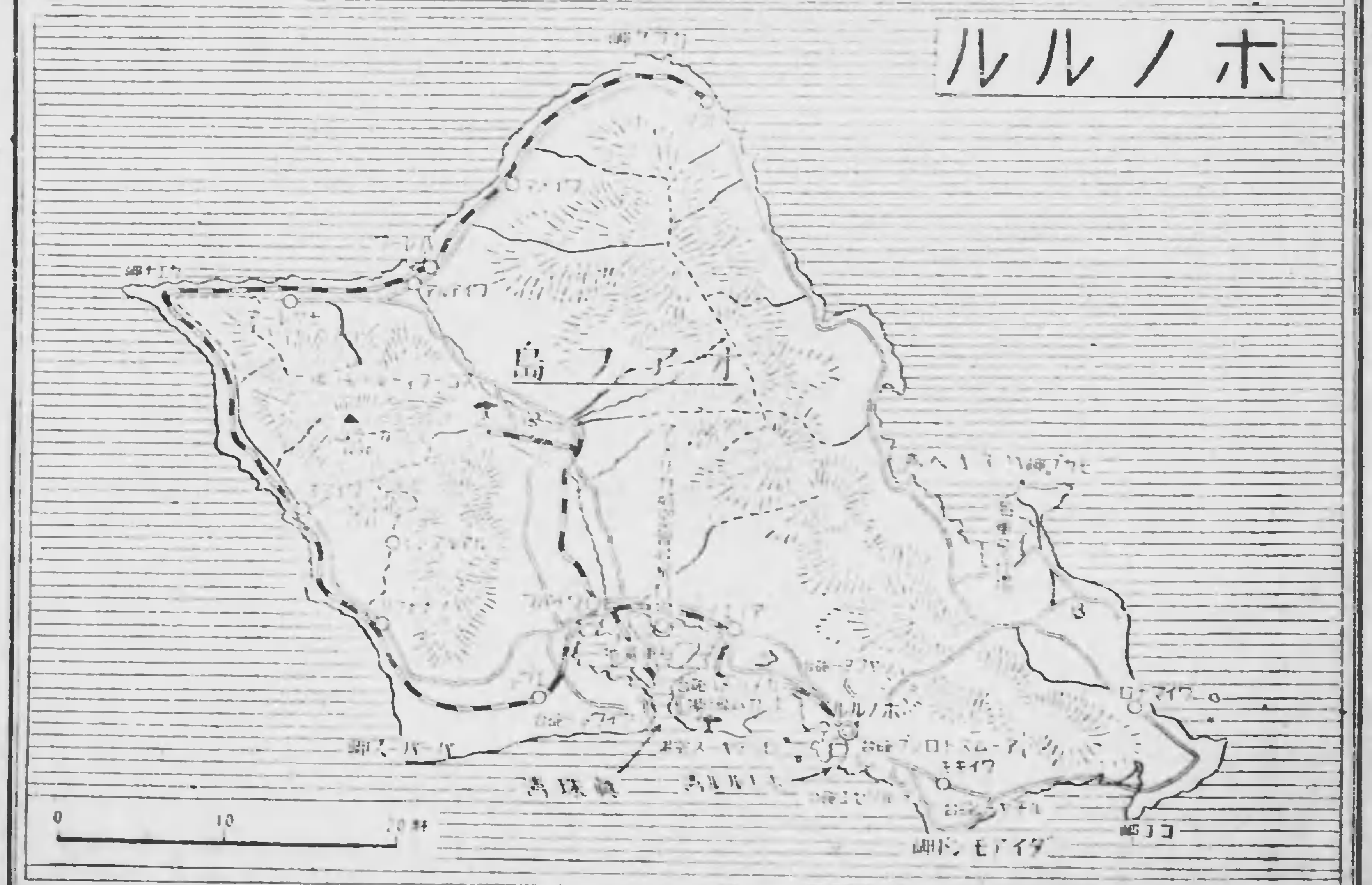
現在一世約五万は主として農業に從事し、漁業その他一般商社の經營に當つてゐる。二世は主として會社員として、銀行、商社等に進出してゐるが、何れもその社會的地位は殘念ながら餘り高いとはいはれない。一世は日本人商業會議所、並びに日本人協會、また二世はハワイ日系市民協會等を中心として、ハワイにおけるわが同胞間の親睦を深め、その社會的地位の向上に努力してきた

支那事變勃發以來、在ハワイ同胞が母國に寄せた愛國心の現はれは枚擧に遑がない。だが彼らは徒らに妄動して在ハワイの中華民國人と事をかまへることなどの椿事を愼重に避け、專ら母國の勝利を信じつゝ海外同胞の面目を保つてきた

ハワイ今日の隆昌は、實にわが在ハワイ同胞が血と汗で作りあげたるもので、その產業の中樞をなしてゐる甘蔗、パイナップル、コーヒー栽培等の農業は、わが同胞のたゆみない勤勞によつてはじめて今日の大をなし得たものである。遠く母國を離れ、異國人の間に交つてハワイ開發の偉業に參加してきた同胞の勞苦は、洵に多大なものであつたらうと思はれる

十二月八日未明、日の丸鮮かな銀翼を輝かしてホノルル上空を亂舞するわが爆擊機を仰いで、同胞の感慨にはそも如何なるものがあつたであらうか





新戰場辭典

フィリピン

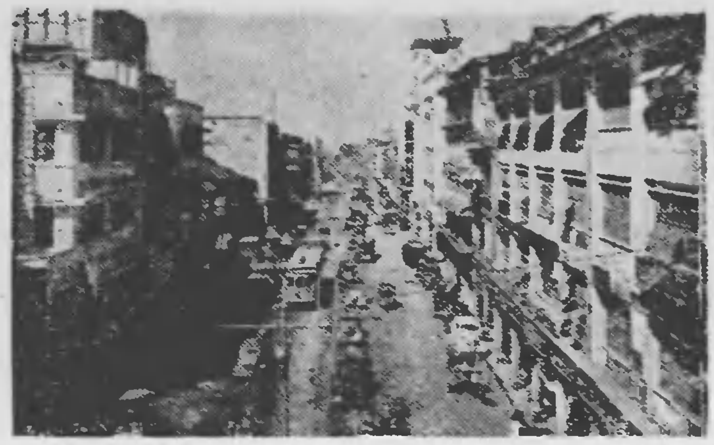
僅か半月程前まで、アメリカが東亞撹亂の中樞的軍事基地として恃んだフィリピンは、今や四方八方から皇軍の手痛い攻擊を受けて、文字通り網中の魚と化さうとしてゐます。過去四十二年、米人の覊絆に苦しんだフィリピンが、漸く民族共榮の旗の下に生れ變る日が近づいたわけです。ではこの機會にフィリピンとはどんな所か、そのありのまゝの姿について、過去十年フィリピン人に正しい日本を理解させようと健闘してきたフィリピン・ジャパン社主幹江野澤恒氏に訊いてみませう

（問）　フィリピンの米極東軍も初めて皇軍の實力を知つたでせう

（答）　全くその通りです。フィリピンの民衆は完全にアメリカの宣傳に乘せられてゐて、日本は力がない、フィリピンまで攻めて來ることは絶對にないと信じてゐたのですから愕然としたに違ひありません

フィリピン軍のごく最近の勢力は、陸軍は米兵約一万、土人兵十二万五千で、海軍は軍艦が三万トン足らず、それに二十隻ほどの性能の優秀な潜水艦がありました。また飛行機は三百乃至三百五十臺位で、その中に例のボーキングB一七型機が若干ありました

とても皇軍に太刀打ちできる勢力でなく、ご承知の通り一擧信殺をかけた空軍は、一週間あまりの戰爭で早くも三百機近く擊破されましたから、潰滅も同然ですし、陸軍にしたところで、米兵は多少戰意がありますが、土人兵となると、職業兵もゐるにはゐますが、大部分は徵兵後五ケ月半の教育を受けた連中に過ぎない連中で、嚴密には兵士と言へません



マニラ市の目貫通りリサル・アヴェニュー。この通りの店舗の三分の一は邦人經營である

（問）　なぜ土人兵は戰意がないのですか

（答）　元來フィリピン人はまだ民族的自覺が少く、從つてしつかりとした國民精神ができてをりません。その上平生米人等は口でこそ美はしいことを言つてゐますが、フィリピン人に對しては先天的に人種的偏見を持つてゐて、商賣などで金儲けをするときは、一緒にやつても、社交的には見下した態度をとつてゐました。ですからたうていアメリカのために身命を賭して戰ふやうな熱意はないと思ひます

（問）　フィリピン人に民族的自覺が少いとすれば、皇軍の攻擊の眞意を理解しない惧れがありませんか

（答）　いやその反對です。民族的自覺が少いといふのは彼等の中には多くのスペイン人や支那人との混血兒であるといふ原因から來てゐるのですが、しかし米人の專橫に對しては、表面的にはともかく、心の底では皆持つてゐます。この氣持は例のフィリピン獨立に對する熱望によく現はれてゐます。ですからこんど皇軍が米人を驅逐してくれるだらうと待つてゐることは明白です

（問）　戰前の日本人の活動はどうだつたでせうか

（答）　日本とフィリピンとの關係は歴史的に隨分古いものですが、實際に進出したのは、明治三十六、七年頃です。現在では日本人は全部で二万九千人に上り、うち一万九千はダヴァオに、四千五百人はマニラ市に、三千人はマニラ北方百五十マイルの所にあるバギオに住んでをり、その他はイロイロ、セブ、サンバンガ等に散在してゐます

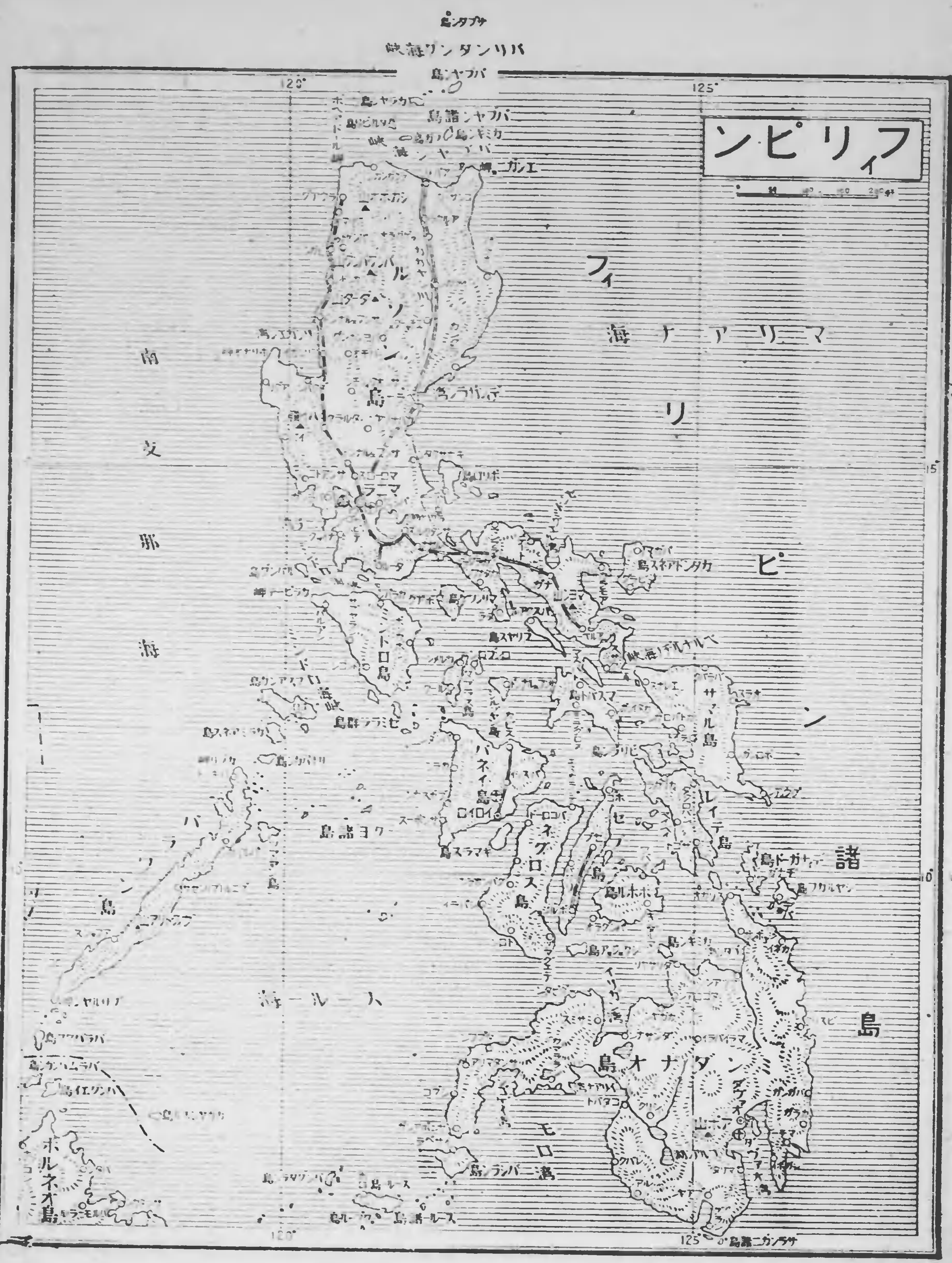
日本人の事業は何と言つても農業が第一で以下小賣業、伐材業、製造工業等です

マニラ麻は貴重な軍需品であり、その六割はダヴァオから邦人の手によつて輸出されてゐた
―ミンダナオの麻乾燥場―

農業は目下皇軍の猛爆下にあるダヴァオが中心です。こゝは明治三十七年頃から日本人が營々として開拓し、今では十數万町歩の沃野が開け、フィリピンの最重要產物である麻が生產されます。日本人の投資は大よそ一億五千万の巨額に達し、約五万人のフィリピン勞働者を使つてゐるといふ豪勢さで、文字通りダヴァオは日本人の造つた町です。從つてダヴァオ州の租稅の八割は日本人が負擔してゐるのですから偉いものですよ

邦人小賣業はフィリピン全體で約六百軒あります。これは比島全小賣業の二割五分乃至三割に相當してゐます。また製材も森林の伐採權を持つてゐる日本人商社は直營三、準直營、買材等十數社に上り、フィリピンの木材輸出事業の八割を左右してゐます。このほか鑛業、工業方面の進出は比較的近年ですが、だんだん盛大となつてゐました

要するにフィリピンにおける日本人は御多聞に漏れず、アメリカの不當な壓迫に抗しながらよく戰つて、以上のやうな權益を作りあげました。特に事變以來、移民問題、土地問題、輸出許可制等に惱まされながら、默々として地盤を守り續けた努力は涙ぐましいものがあります。彼等の權益は戰爭勃發によつて殘念ながら沒收の憂目をみたものがあるかも知れませんが、しかしそれも一時のことで、やがて彼等が本當に大手を振つてフィリピン更生に盡す日もさう遠くはありますまい



新戰場辭典

英領 マレー

過去一世紀以上にわたつて、アジアを蔽ひアジアを窒息せしめようとしつゝあつた英米勢力の最も大きな背景をなしてきたものは、軍事據點シンガポールを擁し、オーストラリア、蘭印等と共に東亞の南門を扼する位置にある英領マレーの存在であつた

今、東亞の共榮を目指してこれら英米勢力の禍根を破碎しようとして起つた皇軍の猛攻がこの地域に集中されてゐることはいふまでもないことで、既に中北支の權益ことごとくを失ひ、香港の陥落も目睫にせまつたイギリスとしてはこゝを東洋最後の權益據點として死守せんとしてゐることもいふまでもない

さてこの英領マレーとはどんなところであらうか

まづ面積はわが九州、四國、北海道を併せた位あり、政治的にはシンガポール島をはじめピナン地方、マラッカ地方のマレー半島三要點、クリスマス島、コ、ス島等の英國々王の直轄に屬する海峽植民地と、セランゴール、ペラク、ネグリセンビラン、パハンの四同盟土侯州から成る**マレー諸州聯邦**、ジョホール、ケランタン、トレンガヌ、ケダア、ペリスの五州からなる**非聯邦諸州**を綜合したもので南北の距離凡そ百三十里位である

人口は五百三十九万六千人餘で、人種別にみると支那人二百三十万を筆頭に、マレー人二百二十六万、インド人七十四万餘その他が十万餘となつてをり華僑の天地と見做すことができるのである

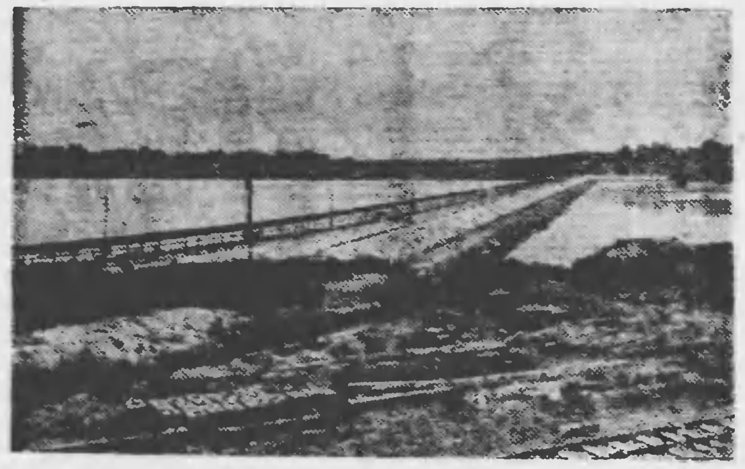
紺碧の空、群青の海、緑の椰子。一寸想像もつかないほど強烈な色彩に眩しくはねかへつてゐる白日光。これがマレー風景の特徴だ

この地にヨーロッパ諸國の蠶食が開始されたのは一五一一年ポルトガル人のマラッカ占領にはじまり一八一九年サー・スタンフォード・ラッフルスによつて英國植民地が建設される迄つゞいたが、その後一八六七（明治六年）海峽植民地が結成されるとともに、マレー半島におけるイギリスの地位は確立され、その後經濟的開發がすゝむにしたがひ、益々重要性を加へ遂に今日の地位を占めるに至つたのである

現今英領マレーが世界に誇るものは何といつても、その特產物たるゴムと錫であらう

先づゴムは一年三十六万一千四百八十四噸（一九三九年）世界生產高の四割一分を產出し輸出量は總額五十五万三千噸、金額にして三億七千万海峽弗（邦貨約二圓）、このうちアメリカだけで輸出量の大半約三十万噸に達してをり、錫は總產額五百五十萬噸（一九三九年）世界全產額の三割を出し、輸出量は八万二千噸、金額にして一億五千八百万海峽弗、このうちアメリカだけで五万六千噸を買つてゐる。これらの莫大な輸出額は今次の大戰にあたつて世界一の產金地南阿聯邦の金とともに英戰費の最大補給源となつてゐるのである

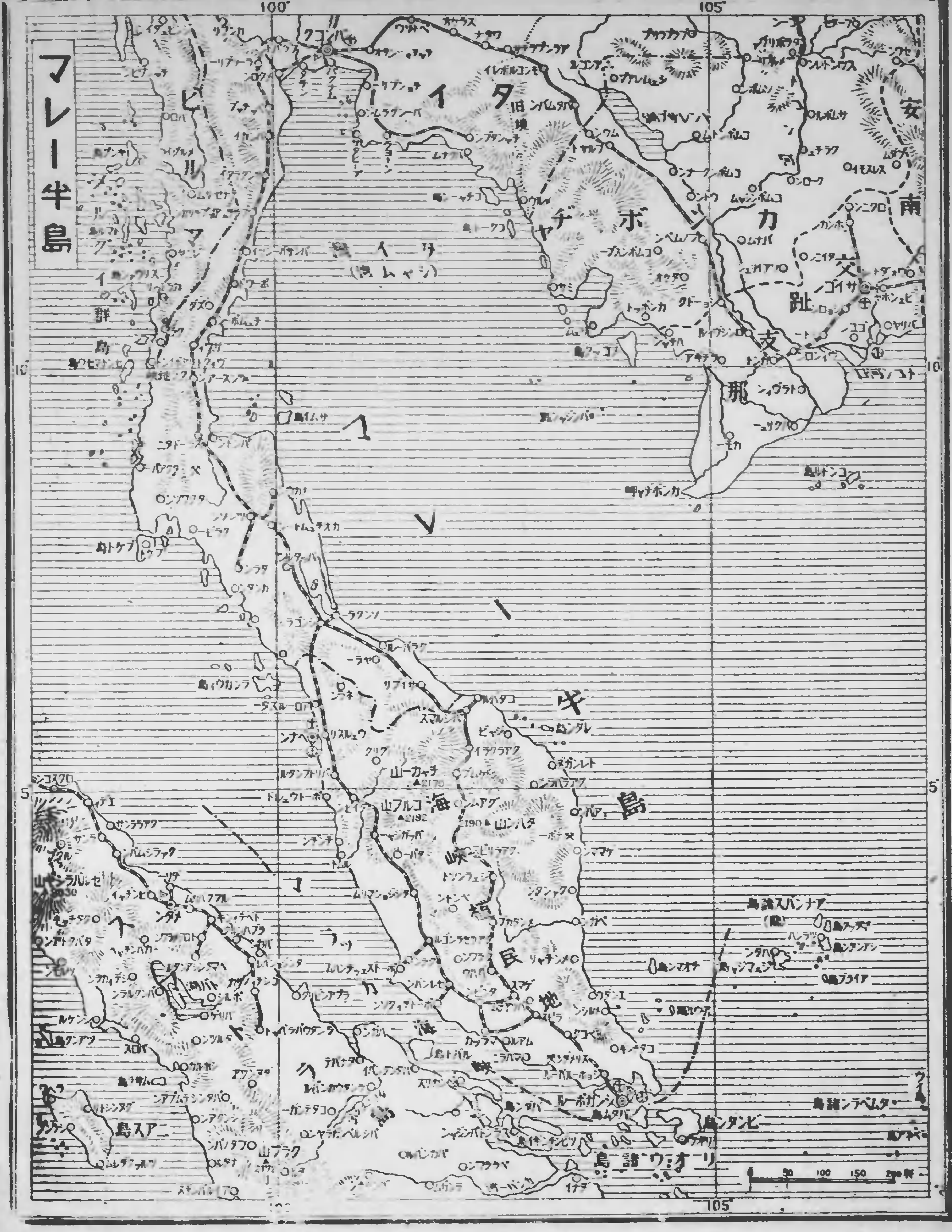
さらにこれに林產、穀類等を加へた總輸出額は七億二千三百万海峽弗に達し、對外貿易額は自治領諸國インドを除いた英聯邦内全部の貿易額よりも多いのである。こゝに英領マレーが戰略上ばかりでなく經濟上極めて重要視され『英屬領中の眞珠』と稱せられる所以であるのだ



シンガポール島と對岸マレー半島のジョホールはこのジョホール陸橋でつながれてゐる。これでもわかる通りシンガポール島とはいへ陸續きといつてもよいのだ。この橋はもとよりマレー内の橋はすべて萬一にそなへて爆破藥が仕掛けられてゐる。

古來ロンドンを中心とした圓周内には全英聯邦領域の四分の一しか含まれてゐないが、シンガポールを中心とする圓内にはその四分の三がふくまれてゐるといはれてゐる。この事實が、マレー、インド、ビルマ、セイロン、濠洲、ニューギニア、ボルネオはいふまでもなくニュージーランド、東アフリカ各屬領、南阿聯邦までも、このシンガポールを根據地とする海軍力によつて防禦することができるといひ、且つ太平洋とインド洋を通ずる最も近い水路シンガポール海峽を閉鎖することによつて東亞の經濟を左右することができると豪語してきたのである

彼等にこの自信をあたへたものはシンガポール島の軍備の充實ぶりにあつたのであるが、十二月八日開戰と同時にこの基地はわが空軍の攻擊の前に完膚なくたゝきつけられ、こゝを根據地として妄動をつゞけてゐた英東洋艦隊の主力はマレー東岸の海戰によつて南海の藻屑とついえ去つてしまつた。この地からイギリスが、最後の據點を失ふ日も遠くないことであらう

わが日本人によつて開拓されたこの地の產業資源は、ケランタン、クワンタン地方の鑛產物、ジョホール一帶の廣大なゴム園であるがこれらがやがて東亞共榮の資源となる日も近いことであらう。いな全マレーの民族がアジア共榮の喜びをともにする時が必ず近いことを信じて戰ひ拔かう。いま皇軍の將兵はこの地のジャングルをくゞり瘴雨と戰ひながら戰果を擴大しつゝあるのだ